

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	苫小牧市こども通園センターおおぞら園【放課後デイサービス】			
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日 ～ 令和8年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日 ～ 令和8年2月13日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広い施設が利用できるため、利用児童一人ひとりの活動空間が確保されています。	活動室の環境を、運動、教材あそび、落ち着ける空間などと児童の実態やニーズに応じて用意をしています。	利用児童の発達課題に応じて、現在の視点とは異なる施設設備の活用ができないか職員間で検討していきます。
2	学校で一日の生活を過ごした児童が、ストレスを軽減し意欲的に活動参加ができています。	職員間で児童の発達特性の共通理解を図り、児童の精神的負担を軽減できるよう日々療育に当たっています。	利用児童にとって、興味強く活動参加できるサービスが提供できるよう内容を工夫していきます。
3	肢体不自由児や医療的ケアを必要とする児童に対して、専門職を配置し相談指導に当たっています。	理学療法士や作業療法士、看護師等の専門職を配置し、医療機関と連携しながら個別的な支援を行っています。	職員の資質向上を図るため、積極的に有効な研修等を受講し知識とスキルの習得に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	学校との引継ぎは行っていますが事業所内での支援が中心で、他事業所等との情報共有、連携が不十分な面があります。	他事業所や医療機関等の様子については、保護者を通じて情報を聴取理解することが多い状況です。	他の利用機関での児童の様子について積極的に情報交換をし、必要に応じて相談支援事業所の方々と連携しながら療育支援を進めていきたいと考えています。
2	療育の指導形態がほぼ固定化されています。	重度の障害を有する児童が利用し、かつ一日の利用児童数も少ないため、個別的な関わり、支援が中心で集団活動の実施が難しい状況にあります。	児童間の交流は発達支援の視点として必要なので、有効な小集団活動のあり方を探っていきたいと思います。
3	地域との交流があまり図られていません。	全利用児童が、身体障害者手帳または療育手帳を取得しており障害が重度なため、安全面を考慮するとなかなか実施できませんでした。	計画的に園外活動を行い、児童が参加可能なイベント等があれば検討していきたいと思っています。